

平成 30 年度地方創生推進交付金事業の実施状況

◎大田原市への移住・定住促進事業（事業費 19,327 千円：交付金 9,663 千円）

大田原市への新しい人の流れを生み出すために、①大田原市を知ってもらう、②大田原市に来てもらう、③大田原市に住んでもらうという3つのステップの段階的で重層的な施策展開により、人口減少に歯止めをかけることを目的として事業を実施する。

1 事業の実施状況

(1) 大田原市移住・定住サポートセンター事業

委託先：特定非営利活動法人やってみっぺよ大田原未来塾

本市への移住希望者のニーズに対応するため、移住希望者の掘り起しから移住後のフォローアップまで、一貫した総合的なコーディネートを実施する機関として、「大田原市移住・定住サポートセンター」を開設し、各種事業を実施する。

① 大田原市移住・定住サポートセンターの運営

平成 28 年 9 月 6 日、本町 1 丁目に開設された「大田原市移住・定住サポートセンター」に専従のスタッフが常駐し、移住相談や移住セミナー等を通じて、移住希望者のニーズに合ったサービス提供を行った。



○サポートセンター月別相談件数（件）

| 方法 \ 月 | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 電話     | 10 | 17 | 15 | 15 | 6  | 14 | 7  | 6  | 3  | 10 | 12 | 7  | 122 |
| 対面     | 11 | 14 | 13 | 8  | 11 | 10 | 8  | 2  | 7  | 4  | 11 | 8  | 107 |
| メール    | 3  | 4  | 4  | 5  | 5  | 3  | 5  | 0  | 1  | 8  | 4  | 2  | 44  |
| その他    | 5  | 17 | 8  | 5  | 3  | 2  | 7  | 8  | 1  | 4  | 17 | 4  | 81  |
| 計      | 29 | 52 | 40 | 33 | 25 | 29 | 27 | 16 | 12 | 26 | 44 | 21 | 354 |

※その他⇒センターからの連絡や情報提供

○相談者年代 ※不明 75 人

|     |      |       |
|-----|------|-------|
| 20代 | 16人  | 4.5%  |
| 30代 | 63人  | 17.8% |
| 40代 | 23人  | 6.5%  |
| 50代 | 98人  | 27.7% |
| 60代 | 53人  | 15.0% |
| 70代 | 20人  | 5.6%  |
| 80代 | 6人   | 1.7%  |
| 合計  | 354人 |       |

○相談内容

|       |      |       |
|-------|------|-------|
| 住まい   | 139件 | 32.2% |
| 仕事・就労 | 68件  | 15.8% |
| 地域情報  | 28件  | 6.5%  |
| 行政・制度 | 9件   | 2.1%  |
| 宿泊施設  | 41件  | 2.9%  |
| その他   | 146件 | 33.9% |
| 合計    | 431件 |       |

## ② 移住・定住セミナー及び移住者サロンの開催

東京都内における移住希望者掘り起しのための移住相談セミナーの実施、また、移住者同士、移住者と地元住民との意見交換を行う移住者サロンを開催した。

### ア 第4回大田原市移住・定住セミナー

開催日：平成30年5月20日（日）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

参加者：9世帯10名（東京都8世帯8人、千葉県1世帯2人）

### イ ふるさと回帰フェア2018への出展

開催日：平成30年9月9日（日）

場 所：東京国際フォーラム

主 催：認定特定非営利活動法人

ふるさと回帰支援センター

全体来場者：20,686名（主催者発表）

大田原市ブース相談者：50組84人

内 容：各ブースでの相談及びPR

県内では、栃木県、日光市、足利市、  
那須烏山市、益子町が出展



### ウ 北関東磐越5県合同移住相談会への参加

開催日：平成30年9月29日（土）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

主 催：栃木県、福島県、新潟県、群馬県、茨城県

来場者：73組92名（主催者発表）

大田原市ブース相談者：7組9人

内 容：先輩移住者トークセッション（各県1人）

個別相談会兼那須塩原市、那須町と那須地方共同PR

県内では、那須塩原市、那須町、茂木町、那珂川町、栃木市、佐野市、野木町が参加

### エ オールとちぎくらしの展覧会への参加

開催日：平成30年10月21日（日）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

主 催：栃木県

来場者数：157組217人（主催者発表）

大田原市ブース相談者：24組29人

内 容：先輩移住者トークライブ（4人）

栃木県担当者からのとちぎの魅力説明

全25市町それぞれの担当者による市町1分間PR、個別相談会

（当市の他、日光市、矢板市、那須塩原市、鹿沼市、益子町）

オ とちぎ暮らしセミナー ～地方で働くということ～ への参加

開催日：平成 30 年 12 月 15 日（土）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

主 催：栃木県

会場来場者：9 組 10 人（主催者発表）

大田原市ブース相談者：3 組 3 人

内 容：栃木県担当者からのセミナーの趣旨説明

参加 4 市町それぞれの担当者による市町 P R

（当市の他、佐野市、矢板市、那須町）

個別相談会

カ とちぎ暮らしセミナー ～女性の働き方・暮らし方～ への参加

開催日：平成 31 年 1 月 16 日（水）

場 所：ふるさと回帰支援センター（千代田区有楽町：東京交通会館内）

主 催：栃木県

会場来場者：10 組 10 人（主催者発表）

内 容：栃木県担当者からのセミナーの趣旨説明

参加 4 市町それぞれの女性目線の市町 P R

（当市の他、宇都宮市、真岡市、那珂川町）

3 グループに分れグループトーク

キ 出張相談会（移動相談窓口）の実施

市内のイベント時において、出張相談所を開設し、移住・定住促進 P R を実施

・くろばね紫陽花祭り

開設日：平成 30 年 7 月 1 日（日）

場 所：芭蕉の里 くろばね夏祭り会場

・天狗王国まつり

開設日：平成 30 年 10 月 28 日（日）

場 所：なかがわ水遊園「下野 YOSAKOI 特設会場」

・第 31 回大田原マラソン大会

開設日：平成 30 年 11 月 23 日（金）

場 所：大田原市交通公園内

・大田原市産業文化祭

開設日：平成 30 年 11 月 3 日（土）～ 4 日（日）

場 所：栃木県立県北体育館

ク とちぎ・那須高原の食文化を考える会への参加

開催日：平成 30 年 7 月 3 日（火）

場 所：那須高原の食卓なすの屋銀座（東京都中央区銀座）

主 催：那須高原の食卓なすの屋銀座

会場来場者：30 人（主催者発表）

内 容

明治大学商学部山下洋史教授の「那須高原における食材の優位性と都心におけるフード・コンセプトの外部化戦略」というタイトルで講演を頂き、その後参加者全員の自己紹介を兼ね企業等のPRをし、会食の中情報交換会を行った。

ケ 大田笑プロジェクト「日本酒が繋ぐ街と自然とヒトの在り方」への参加

開催日：平成 30 年 12 月 12 日（水）

場 所：BUKATSUDO

（横浜市西区みなとみらい 2 丁目 2 番 1 号ランドマークプラザ B1F）

主 催：大田原市×スターメッド(株)

参加者：29 人（予約制）

内 容

大田原市の地酒（六つ蔵）で乾杯し、天鷹酒造尾崎社長が地酒を含めたPR及び地域おこし協力隊による大田原市の魅力PRを行い、その後地酒で参加者と懇親を深めた。

コ UIJターン移住者交流会の開催

市内にUIJターンした人たちの移住後の悩みを含め、移住後のサポートを行うことも極めて重要ではないかと考えサロン形式で実施した。

・第3回UIJターン者等&移住者交流サロン

開催日：平成 31 年 1 月 29 日（火）

場 所：大田原市掘之内 631 番地 2

河のじ（埼玉県からの移住者のお店）

参加者：12 組 20 人

③ 移住体験モニターツアーの実施

主に首都圏在住者を対象に、大田原市の魅力を体験していただくことで、本市での生活を実感し移住の促進につなげるため、移住体験ツアーを 2 回実施。

ア 第5回移住体験モニターツアー（とうがらし苗植え体験会）

開催日：平成 30 年 6 月 16 日（土）～17 日（日）

参加者：9 組 12 人

居住地別 東京都・・・4 組 5 人

神奈川県・・・2 組 2 人

千葉県・・・1 組 1 人

埼玉県・・・1 組 2 人

福島県・・・1 組 2 人

イ 第6回移住体験モニターツアー（とうがらし収穫体験&生活環境見学会）

開催日：平成30年11月10日（土）～11日（日）

参加者：11組16名

居住地別 東京都・・・3組5人  
神奈川県・・・2組2人  
福島県・・・1組2人  
千葉県・・・1組1人  
茨城県・・・1組2人  
栃木県・・・3組4人

④ お試し居住業務

ア 移住希望者の体験宿泊

平成30年度は、好評であった移住体験専用住宅「セカンドハウスなかがわ」を、市が売却することになり、サポートセンターで利用ができなくなったことから、従来利用していた若杉山荘、湯けむりふれあいの丘ゆーゆーキャビン及び南方古民家を利用して、移住・定住を検討している方に対し宿泊体験を実施。

・若杉山荘

延べ利用人員：5組22人

・湯けむりふれあいの丘ゆーゆーキャビン

延べ利用人員：3組20人

・南方古民家

延べ利用人員：4組178人

(2) 大田原市魅力発信事業「大田笑市プロジェクト」

委託先：株式会社スターメッド

本市の魅力発信として、実施してきた知名度向上事業を引き継ぎ、地域における魅力発見、地域への愛着や誇りを持つことで、転出抑制を図ることを目的としたワークショップを開催する。

子どもの笑顔が育つまち。



栃木県大田原市

① 市民「大田笑ライター」による魅力発信

「大田原市魅力発信サイト」におけるコンテンツのひとつである市民「大田笑ライター」で、昨年に引き続きWebライター講座を実施した。

受講した市民ライターに投稿を通じて、市の良いところを紹介してもらい、首都圏の若者層や移住定住検討者に大田原市の魅力を発信した。

開催した3回の講座は、ワークショップをメインに実施したことで参加者同士の交流が活発になり、楽しく記事投稿を実践することができた。また、ライター専用のフェイスブックページを開設したことで、講座後、参加者へのフォローアップが

可能となり、スムーズに運用することができた。

ア 大田原市民ライター講座

日時 第1回：平成30年11月25日（日）午後2時～4時  
 第2回：平成30年12月8日（土）午後2時～4時  
 第3回：平成31年1月12日（土）午後2時～4時

会場 TOKO-TOKO おおたわら 3階 市民交流センター

講師 今西敦子 氏（株式会社スターメッドグループ代表取締役）

定員 30名（受講者14名）



イ 大田原市魅力発信サイト「大田笑ライター投稿ページ」



【 大田原市魅力発信サイトアクセス数 】

| H30. 4月 | 5月      | 6月      | 7月      | 8月      | 9月      |          |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 98,055回 | 78,037回 | 51,379回 | 71,009回 | 64,610回 | 56,379回 |          |
| 10月     | 11月     | 12月     | H31. 1月 | 2月      | 3月      | 年度合計     |
| 79,088回 | 87,185回 | 34,814回 | 26,967回 | 24,099回 | 29,068回 | 700,690回 |

## ② 顔の見えるトークイベントの開催

自治体関係者だけではなく、様々な関係者（地域おこし協力隊・市民ライター）に登壇していただき、実体験に基づき市の魅力を発信するトークイベントを2回（神奈川と東京）開催。

### ア 地域おこし協力隊編

イベント名：『日本酒が繋ぐ 街と自然とヒトの在り方』

開催日時：平成30年12月12日（水） 19:00～21:00

会場：BUKATSUDO ホール（横浜市西区）

参加者：29名（神奈川19名、東京9名、埼玉1名）

ゲスト：天鷹酒造（株）代表取締役 尾崎宗範氏

市地域おこし協力隊 虻川 裕氏、説田 咲氏

### イ 市民ライター編

イベント名：『珈琲で笑顔を届けるまち～OHTAWARA COFFEE の魅力～』

開催日時：平成31年1月26日（土） 14:00～15:30

会場：外苑前アイランドスタジオ（渋谷区神宮前）

参加者：17名（東京9名、神奈川4名、埼玉2名、栃木1名、茨城1名）

ゲスト：クローバー・ボヌール統轄支配人 佐々木 豊氏

珈琲司 ゆだ屋 湯田健司氏

大田笑ライター 森 瑞己氏、牧原 ゆみ子氏

両日とも30歳以下の参加者が半数を占め性別の偏りもなかったことや、小規模のイベントであったため意見交換も活発でとても有意義なものとなった。その一方で想像以上に本市の知名度が低く、このイベントを通して、大田原市を知ってもらう良い機会となった。今後もこのようなイベントを地道に継続していくことが必要であると感じられた。

## ③ 魅力コンテンツブックの作成

「大田笑ライター」の方が発掘した切り口や移住促進における注力すべきテーマからコンテンツを見直すことで、新しい発見と効果的なコンテンツを発掘し、大田原市の『魅力コンテンツブック』を作成。

【コンテンツブック（P18）】



### (3) 東洋大学と連携した新たな観光資源の発掘事業

委託先：東洋大学地域活性化研究所（国際観光学部国際観光学科）

国際観光学部の古屋教授と須賀教授の各ゼミにおける研究テーマとして、本市の観光資源の洗い出しと観光メニューの検討等を委託し、都市部の若者目線という新たな視点から本市の観光振興を図ることで、本市への若い世代の誘客を促進し、将来的な移住・定住につなげる。

#### ① 現地調査

##### 〔 古屋ゼミ 〕

期 間：平成 30 年 10 月 25 日（木） 人員：2 年生 5 名

内 容：市内文化観光施設、商業施設における観光資源調査、関係者ヒアリング

訪問箇所：雲巖寺、hikari no café 蜂巢小珈琲店、芭蕉の館  
与一伝承館・道の駅那須与一の郷、Sunny's Coffee

##### 〔 須賀ゼミ 〕

期 間：平成 30 年 11 月 10 日（土）～11 日（日） 人員：2、3 年生 17 名

内 容：各研究グループのテーマに応じた市内文化観光施設、商業施設における観光資源調査、関係者ヒアリング

訪問箇所：hikari no café 蜂巢小珈琲店、与一伝承館・道の駅那須与一の郷  
那須神社、笠石神社、上・下侍塚古墳、歴史民俗資料館  
風土記の丘資料館、クローバー・ボヌール、天鷹酒造、ふれあいの丘  
芭蕉の館、黒羽城址公園、雲巖寺、那須野ヶ原ファーム

##### 〔 須賀ゼミ芭蕉研究グループの他自治体視察 〕

松尾芭蕉関連の観光資源を共通項として持つ自治体を訪問し、それぞれ方針や取組、課題に関するヒアリングを行った。

##### ア 埼玉県草加市

期 日：平成 30 年 12 月 13 日（木） 人員：須賀ゼミ学生 2 名

訪問箇所：草加市文化観光課、草加市内街歩き（草加松原、草加塾芭蕉庵など）

##### イ 東京都江東区

期 日：平成 30 年 12 月 27 日（木） 人員：須賀ゼミ学生 3 名

訪問箇所：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団（江東区芭蕉記念館）

#### ② 平成 30 年度研究報告会

日 程：平成 31 年 2 月 6 日（水）午後 2 時 30 分～5 時

場 所：東洋大学白山キャンパス

提案内容

##### 〔 古屋ゼミ 〕

ア 「日帰り♪大田原市ひとり旅」として、ひとり旅の自由度を生かし、市内にある観光資源を 6 つのテーマに分類し、旅行者のニーズに合わせた体験ができる観光プログラムの提案。



イ 「#めぐる大田原」として、タイトルに#（ハッシュタグ）を付け、SNSでの情報発信を想定。旅行好きの女性をターゲットとした「お祭りとお朱印」「六つ蔵～酒造巡り～」コースの提案。

ウ 「kawaii ぐるっと大田原」として、公共交通機関を使わないドライブ女子をターゲットとし、市内各施設でコト消費（大雄寺での座禅体験など）を行いつつ周遊するルートの提案。

エ 「あなたの大田原、選んで大田原」として、市内各ジャンルの観光資源を活用し、「作る・採る・食べる・禅・見る」と分類し、旅行者が選択できるようなプログラムの提案。

〔 須賀ゼミ 〕

ア 食文化班「大田原市のガストロノミーツーリズムの可能性」として、特産品・地酒を活用した「女子旅プラン」「大人の修学旅行プラン」の提案。

イ 教育旅行班「校外学習の場としての大田原市の可能性」として、市内歴史文化資源を活用した「国宝コース」「芭蕉コース」の提案。

ウ 芭蕉班「大田原市における松尾芭蕉を使った地域交流のあり方」として、松尾芭蕉という共通点を持ち、相互協定を締結している東京都江東区、埼玉県草加市との連携によるまちづくり・観光振興に関する提案。

## 2 KPIの達成状況

移住・定住サポートセンターの開設後、様々な方法による周知や積極的な活動を通じて、全体的には成果目標を達成した。特に、首都圏でのPRや等の成果により移住相談件数が大幅に増加、また、DCキャンペーンとの相乗効果もあり観光入込客数も順調に増加している。一方で「地域ブランド調査」の「認知度」の順位は若干下げているが、同調査の「魅力度」や住んでみたいと思う「居留意欲度」は順位を上げているので、次の調査まで推移を見守りたい。

| KPIの設定<br>(地域再生計画より)           | 令和2年度<br>指標値 | 平成30年度<br>指標値 | 平成30年度<br>達成状況    |
|--------------------------------|--------------|---------------|-------------------|
| 移住・定住サポートセンターを活用した移住世帯数        | 20世帯(累計)     | 10世帯          | 6世帯<br>(累計14世帯)   |
| 大田原市への移住相談件数<br>(H30改定前120件/年) | 250件/年       | 80件/年         | 354件/年<br>※イベント除く |
| 「地域ブランド調査」における認知度の順位           | 415位         | 445位          | 496位              |
| 大田原市の観光入込客数<br>(H29改訂前320万人/年) | 347万人/年      | 336万人/年       | 350万人/年           |

## ◎大田原市生涯活躍のまち推進事業（事業費 11,549 千円：交付金 5,774 千円）

これまでの「医療・福祉の充実」への大田原市の取組を地域資源として捉え、アクティブシニアが元気なまま安全で安心に過ごせる生涯活躍のまちづくりに取り組むことにより、市民の健康増進、社会参加促進のみならず、中高年齢層の移住者増加、若年層の雇用創出による転出抑制等を図ることにより、人口減少に歯止めをかける一つの手段としていく。

具体的には、平成 28 年度に策定した「大田原市生涯活躍のまち構想」に基づき、30 年度に「大田原市生涯活躍のまち基本計画」を策定し、平成 31 年度（令和元年度）以降、事業エリアの設定や具体的な運営方針を決定し、地域性を活かした次の 3 パターンのモデルを軸とした地域づくりを推進することとした。

- ・ 中心市街地における都市機能集積を活かした高齢者活躍環境強化モデル
- ・ 農山村部における多世代共生コミュニティモデル
- ・ 国際医療福祉大学近隣地域における医療福祉サービス充実モデル

### 1 事業の実施状況

#### (1) 大田原市生涯活躍のまち基本計画の策定

大田原市生涯活躍のまち基本構想に基づき、大田原市生涯活躍のまち基本計画を策定した。本計画は、「高齢になっても、住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう、医療、介護、予防、住まい及び日常生活支援を包括的に確保する体制」として構築している「地域包括ケアシステム」をベースとして、支援を必要とする高齢者だけでなく、元気な高齢者や障害者、子供、その親等、地域に暮らす人々がお互いに支えられる側、支える側として活躍できる地域づくりを目指すものである。取り組み内容が「福祉の視点によるまちづくり」であるため、同じく平成 30 年度に策定した「大田原市地域福祉計画」の部門計画と位置づけ、地域福祉計画策定委員会において審議し、取りまとめた。

業務については、株式会社三菱総合研究所に業務支援委託を行った。

#### (2) 大田原市生涯活躍のまち推進のための啓発、PR 事業

生涯活躍のまちについて、取組の意義や事業内容の普及・啓発のため、地域住民や関係団体等を対象とした講演会を実施した。

##### ○ 大田原市生涯活躍のまち推進事業講演会の開催

「支え合いの地域づくりの進め方」 講師：東北福祉大学教授 高橋誠一氏

開催日：平成 30 年 10 月 12 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

会場：大田原市ピアートホール

参加者：約 190 名

### 2 KPI の達成状況

平成 30 年度は、本格的な事業実施に向けた基本計画の策定及び事業推進のための啓発事業を中心に行ったため、事業の直接的な効果を示す指標についてはまだ把握できない。ただ、先行モデルエリアとして設定している佐久山地区において、既に高齢者支援の範

圏を超えた地域づくりについて協議が行われており、地域人口の社会的減少にも変化が見えている。令和元年度については、佐久山地区の生涯活躍のまち形成事業計画を取りまとめ、次年度以降に本格的な取組を開始する。

| KPIの設定<br>(地域再生計画より) | 令和2年度<br>指標値 | 平成30年度<br>指標値 | 平成30年度<br>達成状況 |
|----------------------|--------------|---------------|----------------|
| 地域見守り隊の隊員数           | 2,590人       | 2,510人        | 2,458人         |
| 事業エリアへの移住者数          | 70人          | 20人           | 37人            |
| 現地確認ツアーの参加者数         | 50人          | 令和元年度開始       |                |
| 事業における雇用者数           | 20人          | 令和元年度開始       |                |

## 〔広域連携〕

### ◎ ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業（事業費700千円：交付金350千円）

栃木県内全25市町を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の継続的な開催を通じて、県・県内全市町・民間事業者・金融機関等が一体となって「自転車によるまちづくり」を進め、レースコースの地域資源化を図ることにより、産業やスポーツの振興、通年での観光誘客の促進、中山間地域の振興、若者の郷土愛の醸成と定住促進、農林業の振興等の施策を県全体で波及的に進めていく。

#### 1 事業の実施状況

第3回ツール・ド・とちぎの開催経費（物品の制作や購入、広報、PRイベント等に要する費用）について、県及び県内全市町から大会実行委員会に負担金として支出。

#### ○ 第3回ツール・ド・とちぎの開催（総事業費：39,500千円）

開催日：平成31年3月22日（金）～24日（日） 3日間開催

23日：個人タイムトライアル（真岡市：井頭公園）

24日：周回レース（矢板市：道の駅やいた周辺）

25日：ラインレース（那須烏山市（JR烏山駅）～足利市（総合運動公園）

参加チーム：15チーム（海外5チーム、国内10チーム）88選手

観客動員数：79,000人（初日9,000人、2日目18,000人、3日目52,000人）

※大会当日は、関係市町から立哨業務等のボランティアを派遣。

## 2 KPIの達成状況

| KPIの設定<br>(地域再生計画より)      | 令和2年度<br>指標値 | 平成30年度<br>指標値 | 平成30年度<br>達成状況 |
|---------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 公営レンタサイクル利用者数             | 60,538人      | 58,902人       | 73,482人        |
| ツール・ド・とちぎ<br>公式ホームページ閲覧回数 | 313,300回     | 204,000回      | 216,100回       |
| 外国人宿泊者数                   | 274千人        | 250千人         | 223千人          |
| 観光消費額                     | 6,530億円      | 6,410億円       | 6,297億円        |

### ◎チャリ旅！～栃木県北サイクルツーリズム事業～(事業費9,916千円：交付金4,958千円)

矢板市を中心として、大田原市、那須町の広域連携により、サイクリスト向けの広域的な情報をWebサイト等で発信し、新たな顧客の獲得や雇用の創出により地域経済全体の活性化を図る。また、スポーツボランティアの登録・育成・派遣の体制整備により、サイクルレースやイベントの円滑な運営への参画に加え、地域を訪れる観光客全体の受入体制の強化を図る。

#### 1 事業の実施状況

##### (1) グリーンツーリズム×サイクルツーリズム連携事業

- ① サイクリスト向けツアーの商品化に向けたモニターツアーの開催〔連携事業〕  
連携事業の実施主体となる、栃木県北サイクルツーリズム推進協議会に負担金として支出。

開催日：平成30年10月13日(土)～14日(日)

コース：那須町～矢板市～大田原市～那須町

参加者：18名

- ② 農家民泊登録農家に対するサイクルスポーツの普及啓発事業

サイクルスポーツへの理解を深めてもらうため、情報発信事業で作成したサイクルツーリズムPR動画をDVDにして農家民泊登録農家へ配布し、サイクルツーリズムの普及啓発を図る。

##### 自転車のまち推進事業

- ① 情報媒体(Web、雑誌等)を活用した情報発信〔連携事業〕

連携事業の実施主体となる、栃木県北サイクルツーリズム推進協議会に負担金として支出。

② 情報媒体を活用した情報発信事業

自転車のまち大田原を広く国内外にPRするため、サイクルツーリズムPR動画「颯走見聞録（さっそうけんぶんろく）」を作成し、市の公式YouTubeチャンネルの他、関係するホームページやSNSを活用し、大田原市の魅力を市内外にPRし、サイクリストの誘客を図る。

③ サイクルスポーツPR事業

矢板市で行われたツール・ド・とちぎ(2日目)の会場に、大田原市PRブースを出展したほか、ステージイベントにおいて、市主催の自転車イベントのPRを行う。

開催日：平成31年3月23日(土)

会場：道の駅やいた

内容：日本酒及び珈琲のPRブース出店

ステージイベント(市主催自転車イベントのPR)

イベント関連チラシの配布(500部)

④ サイクルスポーツ普及のためのセミナー及び講座の開催(各種自転車教室)

プロロードレースチーム 那須ブラーゼンによる各種講座等(脱・補助輪教室、ロードバイクビギナー講座、ロードバイクトレーニング講座)を通じて、スポーツができる喜びや楽しさを実感し、自転車のまち大田原のイメージを発信。

(2) 参加型サイクルイベントの開催

御亭山を舞台に市民参加型のヒルクライムレース(御亭山TT)を開催し、サイクリストの誘客を図り、併せて、地元特産品のPRを行い地域経済の活性化を図る。なお、事業主体の御亭山TT実行委員会へ補助金として支出。

○御亭山タイムトライアルの開催

開催日：平成30年8月18日(土)

会場：メイン会場 ながわ水遊園

レース会場 御亭山(第1ヒート5.2km、第2ヒート1.8km)

参加者：62名(栃木、東京、埼玉、千葉、茨城、群馬、愛知、福島)

(3) 観戦型サイクルロードレースを活用した魅力発信事業

Jプロツアーのロードレースにおいて、全国のサイクリストに本市の魅力をPRし、体験型・交流型観光としてサイクルツーリズムの誘客を図る。なお、事業実施主体の大田原クリテリウム・片岡ロードレース実行委員会に負担金として支出。

○各種Jプロツアーの開催

ア 大田原クリテリウム

開催日：平成30年7月21日(土)

コース：野崎工業団地内(公道：2.5kmの周回)

参加者数：427選手

観客動員数：6,000人

## イ やいた片岡ロードレースの開催

開催日：平成 30 年 7 月 22 日（日）

コース：JR片岡駅周辺（公道：10.8 kmの周回）

参加者数：451 選手

観客動員数：10,000 人

## (5) サイクルピット（自転車の駅）普及×林業振興事業

市内の製材業者と連携して、地元産材を活用したバイクラック等を作成。

プロロードレースチーム「那須ブラーゼン」の協力を得て、市内の協力事業所等にバイクラックを設置しサイクリストの誘導を図る。また、サイクリストへの地元産材のPRにつなげる。

○八溝材バイクラック設置普及宣伝業務委託

※協力事業所（店舗）の同意の上でサイクルマップに掲載

## 2 K P I の達成状況

| K P I の設定 [3 市町計]<br>(地域再生計画より) | 令和 2 年度<br>指標値 | 平成 30 年度<br>指標値 | 平成 30 年度<br>達成状況 |
|---------------------------------|----------------|-----------------|------------------|
| 観光客入込数                          | 10,240,000 人   | 10,240,000 人    | 10,275,449 人     |
| ボランティア登録数                       | 1,000 人        | 1,000 人         | 70 人             |
| Web サイトの閲覧数                     | 41,000 回       | 41,000 回        | 33,096 回         |